扶助者聖母の祝日　９日間の徳の花（１日目）

おはようございます。聖母月を迎えるための徳の花の季節になりました。教会は一番いい時期をマリア様の月としました。

庭のつつじも聖母祭を迎える準備をしているかのようです。つぼみがやがて花を咲かせるために寒い期間を得て風雨に耐えながら美しい花を咲かせるようです。自然界は申し合わせたようにマリア様の祝日を迎えるための準備として聖母祭には美しい花を咲かせてくれることと思います。

今日の徳の花は「喜び」がテーマです。私たちは日頃の生活の中で友達とぶつかった時に仲直りをしたり、病気が治ったり、また、失ったものが見つかった時の喜びはひとしおです。また、水が出ない発展途上国にとっては水がわき出るときの喜びこそその水は命のようなものです。また、母親は子供を産むとき苦しみますが、無事に生まれた子供を見るとき、かけがえのない喜びがあると思います。また、些細の事から友達が喜んでくれるときの喜びはうれしいものです。

放蕩息子のように生まれ変わった息子を迎え入れる父親の心のように神様により近づく事が出来るなら、そこには大きな喜びがある事でしょう。

ヨハネ福音書のカナの婚宴の出来事の中で大切なぶどう酒がなくなった時、マリア様はそっとイエス様にささやき、一つのしるしを通して喜びを共有したのです。喜びを与え尽くせば尽くすほど寛大な人になります。

タゴールはいいます。「私は眠って夢を見ました。人生は喜びであるという夢を。目覚めてみたら人生は奉仕であるとわかりました。そのため奉仕に励んだら喜びを見つけました。」

今日の徳の花は「周囲の人に喜びの種を運びたい。マリア様、あなたの喜びの心を与えてください。」

それでは皆さんにとりまして喜びの一日となりますように。